

学校だより(いしがき)

第30号 令和4年2月18日
文責: 校長 石橋 節二 TEL94-2038

学校教育目標

「ふるさと中原を担う生徒の育成」

～自律と共同を通して～

今回の学校だよりは、松下幸之助氏の名言、二宮金次郎の石像はなぜあるの？ 故事成語⑱「背水の陣」、難解語句、2月～5月の行事予定です。

○有名人物（松下 幸之助 氏）の名言

皆さんは松下幸之助（まつした こうのすけ）さんを知っていますか？

松下幸之助さんは、パナソニック（旧社名：松下電器産業、松下電器製作所、松下電気器具製作所）を一代で築き上げた人です。彼は、1894年（明治27年）生まれ（和歌山県）で、1989年（平成元年）ご逝去されています。

松下さんは、実業家であるとともに発明家でもあり、事業の実績はもちろんのこと経営理念や人生哲学を生み出し、多くの方の模範となっています。

松下幸之助氏はいろいろな名言を残されています。その中に次のようなものがありましたので紹介します。



自分には 自分に与えられた道がある。天与の尊い道がある。どんな道かは知らないが、他の人には歩めない。自分だけしか歩めない、二度と歩めぬかけがえのないこの道。

広いときもある。狭いときもある。のぼりもあれば、くだりもある。坦々としたときもあれば、かき分けかき分け汗するときもある。この道が果たしてよいのか悪いのか、思案にあまるときもあろう。なぐさめを求めたくなるときもあろう。

しかし、所詮（しょせん）はこの道しかないのではないか。あきらめろと言うのではない。今立っているこの道、今歩んでいるこの道、とにかくこの道を休まず歩むことである。自分だけしか歩めない大事な道ではないか。自分だけに与えられているかけがえのないこの道ではないか。他人の道に心を奪われ、思案にくれて立ちすくんでいても、道は少しも拓けない。

道を拓くためには、まず歩まねばならぬ。心を定め、懸命に歩まねばならぬ。それがたとえ遠い道のように思えても、休まず歩む姿からは必ず新たな道が拓けてくる。深い喜びも生まれてくる。

他にも名言を残されていますので、いくつか紹介します。

- ・失敗したところでやめてしまうから失敗になる。成功するところまで続ければそれは成功になる。
- ・感謝の心が高まれば高まるほど、それに正比例して幸福感が高まっていく。
- ・人より一時間余計に働くことは尊い。努力である。勤勉である。だが、いままでよりも一時間少なく働いていままで以上の成果を挙げることもまた尊い。そこに人間の働き方の進歩があるのではないだろうか。
- ・誰でもそうやけど、反省する人は、きっと成功するな。本当に正しく反省する。そうすると次に何をすべきか何をしたらいいかということがきちんとわかるからな。それで成長していくわけや、人間として山は西からも東からでも登れる。自分が方向を変えれば、新しい道はいくらでも開ける。

古賀 稔彦氏は、「自分の夢（目標）を明確にし、それを達成するためにはどうあればいいか逆算し、課題を明らかにする。そして、自分がやるべきことを明確することが大事」だと話されました。また、今年の箱根駅伝で優勝に導いた青山学院大学 陸上競技部 長距離監督 原 晋（はら すすむ）監督は、先日頃、「目標設定と管理」が大事ということで、大きな夢（目標）を達成するためには、実践目標とその振り返りを小刻みに行っていくことの大切さを唱えられています。

3年生は、自分の進路を考え高校受験の真っ最中です。2年生は立志式を行い、現時点での夢や目標を明らかにしました。皆さんたちには大きな道が開けています。今の自分の現状を分析し、逆算してその時々の課題を明らかにし、努力を継続することで、自分の夢や目標に挑戦してください。（古賀 稔彦氏は、やらされる努力ではなく、自分はこうなりたいという気持ちから生じる望む努力が大事と話されました）

○二宮金次郎の石像はなぜ学校にあるの？

先日、中原小学校に行ったとき、小学校の校門わきに二宮金次郎の石像を見かけました。そういえば、私の母校（諸富南小学校）にもあったなと思いだし、二宮金次郎という人はどんな人で、どうして小学校に石像があり、中学校にはないのかを調べてみました。

二宮金次郎（尊徳）は幕末に小田原（現在の神奈川県）の農家に生まれ、努力によって藩や幕府財政の立て直しに活躍された人物です。**戦前には、努力して国に報いる生き方の手本として、全国の小学校に銅像や石像が建立されました。**戦時中は戦争のための金属供出によって銅像は撤去され石像だけ残っているようです。

しかし、戦後は本を読みながら歩くことは危険だとの理由で、また、最近はながらスマホにつながるなどの理由から撤去されている学校もあるそうです。ちなみに、中学校に二宮金次郎の石像がないのは、新制中学校が戦後にできたからかもしれません。



二宮金次郎(尊徳)とはどんな人？

- 1787年～1856年（69歳）
- 相模国（現在の神奈川県小田原市）生
- 元は豊かな農家
 - 相次ぐ災難（両親の死、洪水による田畑の流失）
- ・努力の末 家を再興→小田原藩家老の台所事情立て直し成功→村々や藩士の家計立て直し
- ・幕府役人となる（605ヶ町村の立て直しに成功）

※北茂安中学校には昭和36年に寄贈された石像があります。

○故事成語⑱

背水の陣 はいすいのじん

【意味】 決死の覚悟で敵に立ち向かうこと。全力をつくして、仕事などにあたること。

【由来】 「背水の陣」とは、川や沼などを背（せ）にして陣をつくること。こうすることによって、後ろが川であるため、敵を前にしても逃げ場がないため、兵士が必死になって戦うようにし向けた。漢（かん）の国の王の劉邦（りゅうほう）のもとに名将として名高い韓信（かんしん）という武将がいましたが、この韓信が趙（ちょう）の国と戦ったときにこの方法を利用して、見事に勝利を収めたということから、この語ができました。 **（史記）**

○難解語句

いただきます：身分の高い人からものをもらったり、神様に供えたもののおさがりを受ける際に、頭上に戴いたことから、ものをもらうという意味が生まれ、いただいたものを食べたり飲んだりすることから、「食べる」「飲む」の謙譲語として使われるようになった。そこから、食べる前の言葉として「いただきます」が使われるようになった。

もしもし：電話で最初に相手に呼びかける時の言葉。「言う」の謙譲語が「申す」で、電話が開通した当初、これから話し始めますよという合図の「申す申す」が「もしもし」となった。

不撓不屈（ふとうふくつ）：どんな苦労や困難にも負けず、絶対に屈したり挫けたりしない強靱な精神を指す

威风堂々（いふうどうどう）：態度や人格が、堂々としていて威厳があること

質実剛健（しつじつごうけん）：飾り気がなく、中身においてもたくましく、誠実で真面目であろうとするさま

初志貫徹（しょしかんてつ）：最初に決めた目的や志を、どんなことがあっても最後まで貫くこと

快刀乱麻（かいとうらんま）：もつれた糸を勢いよく断ち切ることから、転じて無理難題を鮮やかに解決すること。

○2月～5月の行事予定

※新型コロナ感染拡大の場合は変更の可能性あり

- ・1,2年生学年末テスト2/22（火）～25（金）
- ・佐賀北高校 通信制試験出願 3/2（水）～3/15（火）
- ・県立一般選抜試験 3/8（火）、9（水）
- ・第75回卒業証書授与式 3/11（金）
- ・県立高校一般選抜試験合格発表 3/15（火）
- ・令和3年度 修了式・職員離任式 3/24（木）
- ・令和4年度 始業式、赴任式 4/6（水）
- ・令和4年度 中原中学校入学式 4/11（月）
- ・1年生部活動体験 4/12（火）～4/15（金）
- ・家庭訪問は今年度同様、場所確認 ※仕事を休まれる必要なし
- ・第1回学校開放デー(授業参観) 5/2（月）
- ・中原中学校体育大会 5/21（土）